

児童発達支援事業ぱれっと 支援プログラム

作成年月日：2025年3月10日

営業時間		月～金 9:45～11:45 / 月～木 13:45～15:45	送迎実施の有無	なし
法人理念		・子どもたちが自分の好きなことを見つけ、夢中になって遊ぶ楽しさや誰かと一緒に遊ぶ楽しさを感じ、自分に自信をもって成長していくことを支える場所となる。 ・保護者が、子どもの自己主張や手を焼かせる姿も成長の証として楽しみながら子育てができるように、育ちの見通しを伝えたり、一緒に子どもを育てていく共同体となる。 ・「子どもは子どもらしく遊びながら育ち、親は子どもとの生活を楽しみながら子育てできるように」という思いの上に、専門性を持った目や関わりで、たくさん子どもや家族の方を支えていける場を目指す。		
支援方針		・時間の見通しを持って行動できるよう、子どもにわかりやすい環境を整え、情緒安定を図りつつ、生き生きと遊べるようにする。 ・遊具による遊びや、散歩や戸外遊びなど全身運動を多く取り入れ、身体全体の発達を促し、健康で丈夫な身体をつくる。 ・手や道具を使い、素材に触れる中で手指の操作を確かなものにしていく。 ・くりかえし遊び込む中で活動意欲を引き出し、遊びや友だち関係を豊かに広げていく。 ・大人と遊びの関係を深めていく中で、共感する力を育て、自分の気持ちや要求を、視線や指さし、言葉などで相手にしっかり伝えられるようにする。 ・集団活動をととして、友だちと遊び楽しさを知り、遊びのルールや友だちとの関わり方を学び、社会性を育てていく。		
支援内容				
本人支援	健康・生活	・必要に応じてサポートや見守りをしたり、身の回りのことを「自分でやってみよう」と思えるポイントと一緒に見つけながら、子どもがじっくり試す経験を保障する(靴の着脱、靴下、手洗い、おやつ開封、階段の昇降など)。 ・睡眠・排泄・食事などの生活基盤を整えるために、家庭の状況を踏まえて、家庭で取り組めることを一緒に考える。 ・入室時に、けがや病気の予後、気持ちの状態や療育の中で配慮すべきことを保護者から聞き取り、子どもたちが安心して活動に向かえるようにする。		
	運動・感覚	・受容できる感覚や心地よく感じられることの幅を広げたり、自分自身の身体をコントロールできる喜びを味わったり、手応えを感じられる経験を積み重ねる。 ・楽しめること、できることが増えることによって、バランス感覚、力の強弱、距離感を育て、身体や手指操作の巧緻性を高める。 ・様々な素材や感覚に触れ、五感で味わう経験を積む。 ・一人ひとりの子どもに合わせて、感覚的な欲求を満たすために遊びのアレンジをしたり、過ごしやすい環境を調整する。 ・初めてのことにに対する抵抗や苦手な感覚は、大人や友だちがやっているのを見たり、道具を介して触れるなど、安心して挑戦できることから取り組む。		
	認知・行動	・大人や友だちと一緒に、楽しめる遊びの幅や経験の幅を広げていく。 ・多様な遊びを通じて、概念の形成や認知機能を育てていく。 ・それぞれの子のペースで興味を持ったり楽しさをつかめるように、活動で使用する実物を提示したり、大人や他児がしている姿を見る時間や、部分的な参加を保障する。 ・同じ流れや活動を繰り返したり、スケジュールボードを参考にしながら、次の活動への期待をもって行動を切り替えていけるようにする。 ・一人ひとりに合わせた伝え方を工夫し、遊びの中身や楽しさが分かって取り組めるようにする。		
	言語 コミュニケーション	・大人との安心できる関係を築き、他者への意識や期待を高め、要求など伝えたい気持ちを膨らませる。 ・言葉だけではなく、身振りや仕草で自分の気持ちやねがいを他者に伝え、伝わる嬉しさや思いを受け止めてもらえる経験を大事にする。 ・練習や訓練とならない自然なやりとりの中で、コミュニケーションの段階に応じた表現の仕方を受け止め、表現したいことを大人が汲み取りながら言葉とつなげていく。 ・自分からの一方的な発信にとどまらず、相手が言っていることに意識を向け、受けとる姿勢を大人と一緒ににつくったり、相手の意図をかみ砕いて説明してもらいながら、双方向のコミュニケーションの力を育てる。 ・大人がサポートできる環境の中で、子ども同士やりとりする経験を積み重ねる。		
	人間関係・社会性	・色々な感情を受け止めてもらえるという安心感を基盤に、大人と気持ちのやりとりを重ねながら、気持ちの立ち直り切り替えの力、他者と関わる力など、自分のつもりと環境との折り合いをつけていく経験をする。 ・大人と一緒に身体を動かしたり、大人にやってもらおう楽しさを感じながら、人と関わる心地よさを感じ、他者への関心を高める。 ・みんなで身体を動かしたり、歌や絵本に合わせて手遊びや身体の動きを模倣しながら、一緒にやって楽しいと感じられる経験を重ねる。 ・一人じゃできない面白さや楽しめることを味わいながら、「友だちと遊べて楽しい」という気持ちをふくらませる。 ・簡単なゲーム的な遊びの中で、みんなの前で役割をもって自分の力を発揮する機会をつくる。 ・様々な遊びや活動を通して、順番や遊びのルール、約束や人との関わり方を学ぶ。 ・見立て遊びやつもり、ごっこあそびを通じて、役割やイメージを他者と共有しながら遊ぶ。		
地域支援・地域連携 (地域交流・園外活動)		・保育園・幼稚園等や医療機関など、子どもや家族がつながっている機関全体を把握しながら必要な連携をとる。 ・施設内で行われている京都市子育て支援活動センターつどいの広場事業と連動して、療育につながるまでの入り口や、療育終了後の思春期・青年期の居場所づくり等に取り組み、子どもや保護者の状況に応じて柔軟に支援を継続する。 ・保育園・幼稚園等と子どもの姿や保護者の状況、家庭での生活の様子等について情報共有し、関係機関がつながって子どもの育ちや家族への支援をしていく。 ・地域における関係機関とのつながりづくりをする(自立支援協議会や地域の様々なネットワーク等への参加)。		
移行支援		・一人ひとりの子どもが楽しく生活しながら必要な経験を積んでいける生活の場を、保護者や関係機関と一緒に検討する(子どもの姿や育ちの課題に応じた集団生活の場の検討する)。 ・保育園等への訪問や電話等で子どもの姿を共有し、それぞれの生活場面における今後の方針と一緒に検討する(保育や療育の役割を整理する)。 ・子どもや保護者(家庭)の必要性に応じて就学先や就園先と面談し、引継ぎを行う。特に困難ケースは、関係機関と面談を重ねながらいていぬいに引継ぎをする。また、移行後も必要に応じた相談対応する(引継ぎと長期的な支援体制づくり) ・就学に向けた保護者学習会等を開催し、就学までの流れや準備について学べるようにする。 ・先輩保護者との交流の場を設け、就学に向けた準備や就学後について、より具体的なイメージを持てるようにしたり、保護者が子どもとの生活や子どもの育ちについて見通しが持てるようにする。		
家族支援		・親子活動を通じて、親子であそぶ楽しさを経験し、子どもへの関わり方を学ぶ。また、集団の中での子どもの姿を間近に見ながら、家庭外でのわが子の姿や育ちの変化を知る機会を作る。 ・親としての喜びや子どもとの生活そのものを楽しんだり、保護者が孤独にならないように、保護者の不安や葛藤を支えつつも、育ちの事実や子どもの姿の意味や発達的な価値を伝え、子どもの育ちと一緒に見ていく。 ・保護者同士がつながり、共感や学びあう関係を作る。また先輩保護者から、育ちの見通しやアドバイスが得られるようにする。 ・保護者懇談会:保護者向けの学習会、ペアレントプログラム、保護者同士の懇談など、グループによってテーマを設定して行う。 ・療育報告会:療育内での子どもたちの活動の様子や、グループごとのねらい、療育の中で大事にすることを伝える。 ・定期的な面談だけでなく、きょうだい児・家族・保育園等など保護者からの相談に柔軟に対応する。		
職員の質の向上		・気兼ねなく相談し合える人間関係づくりを大切にしている。 ・日常の業務の中で、子どもの姿や保護者の思い、施設内の課題、情勢等について細やかな情報共有や意見交換をしている。 ・全ての職員に外部研修、内部研修を受講する機会を設ける。児童分野や療育に必要な専門研修に参観し、学んだ内容を職員間で共有する。 ・虐待防止研修やAEDを用いた心肺蘇生法などの救命訓練の実施。 ・OJTの実施(新人～中堅職員):業務の中で指導を受けたり面談を通じて、職員一人ひとりが自分自身の働き方を客観的にとらえたり、主体的に業務に向かえるようにしている。		
主な行事等		・大きな行事はないが、活動の中に季節感を盛り込み、家庭や園や学校での行事や取り組みと共通の体験のようにして楽しめるようにする。 ・月1回、全グループで親子活動の時間を設け、製作やクッキングなどに取り組む。		